

報告

経営史学会第一回大会

安岡 重 男

数年前から準備されていた経営史学会は、経営史研究会を母体として、昨年秋、立命館大学において創立総会を罷き、今秋(昭和四十二年)十一月六日・七日の二日間にわたって、東京大学において、第一回大会を開催するものとなつた。第一回は自由論題報告、第二回は経営史報告に充てられた。

自由論題報告は、ひろく会員に報告者を募り、共通論題報告は、同じく会員に、意見を求め、決定された。自由論題報告は、二十二におよび、会場は三カ所にわけられた。そのため聞きたい報告が重複する不便が生じたのは残念であつた。今回は第一回大会であるし、盛大に総花式に行われたものと感ぜられるが、今後なんらかの形で整理する必要があるだろう。

共通論題は、「経営史の認識」であつて、会員の多くが(私も含めて)、経営史の研究の必要は認めながら、経営史とはいつただけかについて摸索しているときであるから、望まれたテーマであり、興味深かつた。もちろん報告者間で観点を統一したといつたものではなかつたが、それは望むべくもないことであり、それぞれ考えを興にする研究者が、同一のテーマに接近しようとしたことによつて、私としては大いに啓発された。大会プログラムはつぎのとおりであつた。

第一日(十一月六日)

自由論題報告(報告 三十分、討論 十分)

第一会場(工学部十三番教室)

午前九時三十分より

「ニューイングランドの企業家」 明治大学 田村光三

「初期アメリカにおける内地地帯の流通業」

——ペトラーによる商業活動を中心にして—— 慶応大学 小林辰彦

「内閣の組合(行・心)の歴史と華僑社会にお

ける役割」 慶応大学 岡田直作

は秋一時(あり)

「維新期における商業利用客を本との動向」 池家と三井家について—— 同志社大学 安岡重男

「日本資本主義と公害産業 あるアト・ニイ

ュンシーの歴史を中心にして」 同志社大学 中瀬亨一

「福作農業における富農技術」 畿内農業史

執筆—— 同志社大学 岡 光夫

「津藩における酒造資本及びその経営形態

について」 東北女子短期大学 松木 侃

第二会場(工学部十四番教室)

午前九時三十分より

「洋務運動の企業者活動(官督商弁を中心に)

——伝統的価値体系、社会構造、社会体制が

企業経営に与える影響に焦点を合わせて」

東京大学 楊 天益

「洋楽器国産化と山業寅楠」

浜松商科短期大学 大野木吉兵衛

「製糸金融機関の経営史」

東京大学 山口和雄

午後一時より

「イギリス工業における固定資本概念の生成過程について」

立教大学 大河内皓男

「イギリス産業革命期の機械工業企業—ネイスミス」

角山 栄

「ランカシャー綿工業における株式会社企業

荒井政治

の先駆者—サン・ミル」

関西大学 遠藤輝明

「ドイツにおける貴族的企業者活動と領主経営の展開—鉄工業における一事例」

横濱国立大学 福応 健

第三会場（工学部十五番教室）

午前九時三十分より

「米国大企業における事業部制成立の歴史的考察」

富山大学 下川浩一

「米国における管理科学の形成の基盤」

東京大学 土屋守章

「イギリス資本主義史上における金利生活者階級」

一橋大学 米川伸一

午後一時より

「日本経営史における地主制」

明治大学 土屋喬雄

「ヒルシュマイア氏の日本の企業者活動論」

明治大学 由井常彦

「経済成長と企業成長—戦後日本の場合」

立教大学 野田一夫

「任友財閥の人物と」

東京大学 脇村義太郎

懇親会 会場・レストランニュー・ホンゴ

時間・六時〜七時三十分

（本郷三丁目信販ビル内）

統一論題報告「経営史学の課題」

統一論題報告「経営史学の課題」

議長 南山大学 酒井正三郎

午前九時三十分より（各報告三十分、コメント十分、討論二十分）

「問題提起」 東京大学 中川敬一郎

「『文化構造』と経営史—行為理論による経営者研究」

報告者 東京教育大学 岡 宏

コメントーター 明治大学 由井常彦

「組織と経営史学」 大阪大学 高田 馨

コメントーター 東京大学 中川敬一郎

午後一時より

「経済史からみた経営史の諸問題」

報告者 東京大学 大塚久雄

コメントーター 神戸商科大学 栗田真造

「経営主体の諸概念」 報告者 神戸大学 桂 考一

コメンテーター 一橋大学 米川 信一

「個別企業史は如何に研究すべきか」

報告者 経営六学 井上 忠勝

コメンテーター 一橋大学 藤津 清治

会員総会 会場 法文経十三番教室

時間 四時～五時